

歌を覚えた後は、音楽室の隣のホールで振りつけのけいこを始めた。一斉練習の後、各グループごとにメロディーを口ずさみながら練習し、互いに教え合う姿も見られた。こきりこの「カシ、カシ」という音に、子供たちも次第に魅せられていったようである。

発表会の場を、「親子卒業を祝う会」にしようと持ちかけたところ、「やっつてもいい、できそうだ」という意欲がどの子にも見られてきた。また、体育の表現運動でも、「ソーラン節」に取り組み、体育館で漁師の労働の様子を体いっばいに表現していった。海上でのニシン漁の様子をリアルに表現するため、樽は五メートル近い竹竿や体操用棒を用意し、他に魚をすくうタモ網、網を引く綱、魚を入れる背負いかご等も準備して、振り付けの一つ一つの動作の意味や力強さを理解しながら進めていった。

初めのうちは、照れながら踊っていた子供たちも次第に熱が入り、発表への意欲も見えてきた。授業参観の日には、踊りの練習の様子を見た保護者の方々から、「衣装はどうするのですか」と心配の声が上がり、「豆絞りぐらいいい」と伝えたところ、育成会から法被を借りてくれることになった。女の子たちも「着物を着

てみては」ということになり、衣装の方も本物はだしになってきた。さらに、笛や太鼓でお囃子を付け加え、雰囲気が出てきた頃には、どの子も「ぜひ発表したい」という主体的な気持ちに変わっていった。こうして、振り付けを覚えながら男女がまとまり、日本の文化を大事にしているという心や態度が、次

## 失われた特権と束縛

中澤 咲



ここ二年間、私は職場で「一番若い女性」という甘美な響きの裏に悲劇のヒロインを思わせる立場にあった。今年その座を去ることになり、一抹の寂しさを感じる一方である束縛から解放された喜びも感じている。

寂しさというのほもちろん、自分が一番若く、美しい（おっとこれは余計だ）という事実がなくなってしまうことと、若いが由に許された失敗が沢山あったのだが、これからは許されないということである。周りの方々に支えられそれに甘えてきたがこれからはそうもいかず、親の

第に身につけてきたようである。やがて迎えた三月二十二日。「卒業を祝う会」のアトラクションで、子供たちは会場狭しと、漁師や翁になりきって踊り、多くの拍手を浴びながら中学校へと巣立っていった。

私は巨頭に熱くなるものを感じた。（須賀川市立西袋第一小学校教諭）

愛情を生まれたばかりの姉弟にとられた様な心境である。

解き放たれた束縛というのは諸會計や記録、お茶くみである。会計や記録は同じ若い人でもなぜか女性が多い。細やかだから男性よりも向いているのかもしれないが、私個人のことを言えば大ざっぱな上に字は汚ないので適役とは言い難い。にも関わらず昨年は生徒会を始め五つの会計を担当し、校内にとどまらず出張先でも何度となく記録をすることに

なった。しかし今年はずっと若い女性が入ってきたことと「担任」という強い免罪符(?)のお蔭で役を降りることになった。

そしてお茶くみであるが、これは「一番若い女性」にとつて精神的負担の大きいものである。本校がお茶くみは若い女性の仕事と前もって決められていれば「男女同権」などと叫んで反発したのだが、本校の男性諸氏は非常に現代的な紳士で「お茶は自分で入れる」と言ってくれた。素直な私は額面通り受け取って朝全員にお茶を入れたことはない。しかし、言わないからこそ「せめてお湯は沸かしておこう」と思い、初任の年の半年間だけは沸かしたが、半年坊主になってしまった。そのことにははずつと負目があり、朝、年上の男性が沸かしたお湯でお茶を飲むことはできなかった。しかし今年には二番目に若くなったので責任が薄れた分、ゴソゴソと飲むようになったその代わり毎日流し場はきれいにしておく。

一緒に大学を卒業して企業に勤めた友人はお茶くみコピーとりで嫌気がさして退職してしまっただかがお茶くみ、されどお茶くみ。「一番若い女性」を環境の良い職場で乗りきった今、自分の幸せをかみしめ日々感謝している。

（県立南会津高等学校教諭）